

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成21年度:34～36.

病棟勤務看護師における医療安全風土に関する検討

野中雅人、柴田千恵子

「病棟勤務看護師における医療安全風土に関する検討」

7階西ナーステーション 野中 雅人、柴田千恵子

【目的】

医療安全対策には、個人の医療安全に対する意識が重要であると考えられる。安全意識は、組織の安全風土により醸成される。安全風土や安全意識を明らかにすることは、今後の医療安全対策にとって意義があると考えた。最近まで、医療安全に対する意識を測定する十分な尺度がなかった。そのため、看護職員を対象とした医療安全風土に関する先行研究は少ない。そこで医療安全風土尺度を利用し、病棟勤務看護師からみた病院の医療安全風土の実態を明らかにすることにした。

【研究方法】

研究対象：A病院の病棟勤務看護師（但し、ICU・NICU・手術室を除いた14病棟とし、看護師長は除いた）。調査期間：2008年6～11月。調査方法：無記名自記式質問紙を用いて調査した。回答者の属性は、「性別」「経験年数」「部署経験年数」を質問した。松原ら（2008）が作成した医療安全風土尺度（8下位尺度33問、「職員の態度」に関する下位尺度「自由なコミュニケーション」「継続的改善」「報告と規則の遵守」「患者や家族の参画」、組織要因に関する下位尺度「他職種の安全リーダーシップ」「上司の安全リーダーシップ」「安全管理委員会の安全リーダーシップ」「規則と物品の有用性」）を、承諾を得て測定した。倫理的配慮：本研究への協力は自由意志によるものであり、いずれの時点においても拒否による不利益はないこと、プライバシーを厳守すること、またデータは統計的に処理し個人が特定されないように配慮することを文書にて説明し、回答をもって同意を得た。

【結果】

調査票は346人に配付し263人（女性247人・男性16人）から回収した。下位尺度の「他職種の安全リーダーシップ」の得点（平均値・最大5点）は、2.91点。「自由なコミュニケーション」について、経験年数別に検討を行なった結果、経験年数3年未満2.98点、3～5年未満3.35点、5～10年未満3.49点、10～20年未満3.5点、20年以上3.57点であり、経験年数が少ない看護師ほど低値となった。

【考察】

他職種（医師）の安全リーダーシップが低値となった。看護師は医師による率先した安全に対する関わりが不足していると考えている。先行研究においても指摘されていることだが、医師の医療安全に対する積極的な参加が求められる。自由なコミュニケーションについて、経験年数の少ない看護師は、報告や指摘など、安全に関するコミュニケーションが不足していると考えている。これらの看護師は、病棟において業務遂行と対人関係への不慣れから常に緊張状態にある。そのため安全に関する十分なコミュニケーションが行えていないと考えられる。部署内で、そうした経験年数の少ない看護師の心理に配慮し、相互に指摘し合える関係を形成していく必要がある。

I 研究目的

医療安全風土尺度を利用し、病棟勤務看護師からみた病院の医療安全風土の実態を明らかにする。

II 研究方法

- 1.研究対象 :A病院の病棟勤務看護師(但し、ICU、NICU、手術室を除いた14病棟とし、看護師長は除いた)
- 2.調査期間 :2008年6月～11月
- 3.データ収集方法 :無記名自記式質問紙を用いて調査し、配布・回収は集合法で行った。
- 4.データ分析方法 :医療安全風土尺度とインシデント報告件数をSpearmanの順位相関係数にて検定を行った。
- 5.倫理的配慮 :本研究への協力は自由意志によるものであり、いずれの時点においても拒否による不利益はないこと、プライバシーを厳守すること、またデータは統計的に処理し、個人が特定されないように配慮することを文書にて説明し、回答をもって同意を得たものとした。

6.測定指標

i 医療安全風土尺度は、8下位尺度33問で構成

職員の態度	①自由なコミュニケーション (自由)
	②継続的改善 (継続)
	③報告と規則の遵守 (報告)
	④患者や家族の参画 (患者)
組織要因	⑤他職種的安全リーダーシップ (他職種)
	⑥上司的安全リーダーシップ (上司)
	⑦安全管理委員会の安全リーダーシップ (安全)
	⑧規則と物品の有用性 (規則)

ii インシデントの報告内容(2008年4～7月)は、10項目に分類

①指示情報伝達 (指示)	
②薬剤	内服・点滴など
③輸血	
④検査	
⑤周手術	
⑥治療処置 (治療)	
⑦医療機器等 (医療)	
⑧ドレーンチューブ類 (ドレーン)	
⑨療養上の場面 (療養)	転倒転落など
⑩管理上の場面 (管理)	

III 結果

調査票の回収状況と回答者の属性

調査票は346人(14病棟)に配布し263人から回収した(回収率76%)
有効回答100%

表1) 回答者の属性

	人数	%
総数	263	100
性別	女性	247 93.9
	男性	16 6.1
経歴年数	3年未満	85 32.3
	3～5年未満	50 19.1
	5～10年未満	57 21.6
	10～20年未満	50 19.1
	20年以上	21 7.9
部署経歴年数	3年未満	185 70.4
	3～5年未満	56 21.2
勤務病院箇所数	5年以上	22 8.4
	1箇所目	179 68
	2箇所以上	84 32

表2) インシデント報告件数(2008年4～8月/14病棟)

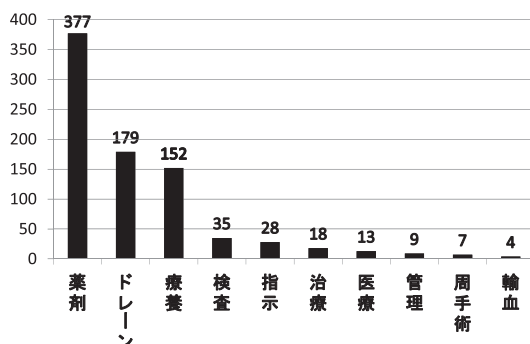
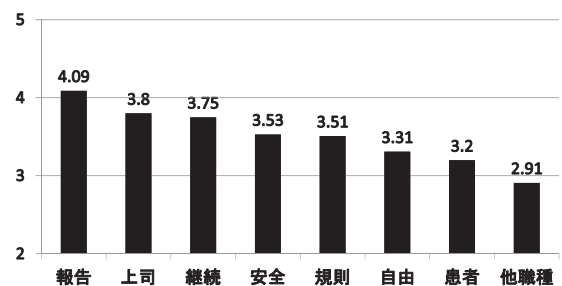


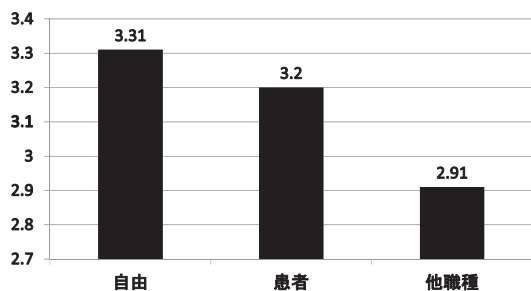
表3) 医療安全風土尺度(8下位尺度)

* 尺度得点は、最大5点(平均値を表示)

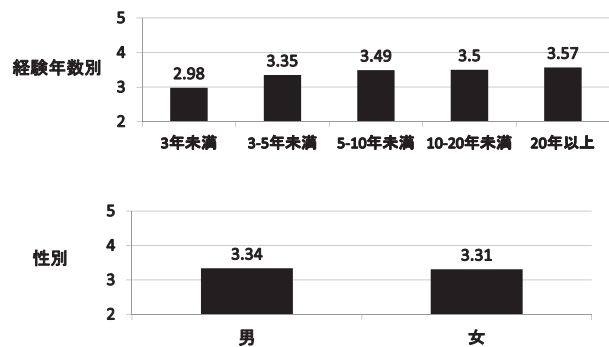


IV 考察

1. 院内における安全意識

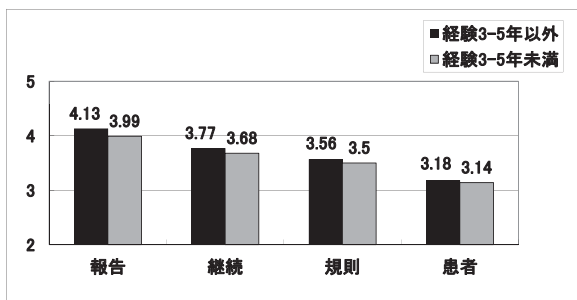


自由なコミュニケーション



2. 中堅看護師における安全意識

職員の態度(4下位尺度)



3. 医療安全風土尺度得点とインシデント報告件数の相関

	自由	継続	報告	患者	上司	他職種	安全	規則
指示	-	-	-	-	-	-	-	-0.580
薬剤	-	-	-0.626	-	-	-	-	-
輸血	-	-	-	-	-	-	-	-
検査	-	-	-	-	-	-	-	-
周手術	-	-	-	-	-	-	-	-
治療	-	-	-	-	-	-	-	-
医療	-	-	-	-	-	-	-	-
ドレーン	-	-	-	-0.694	-	-	-0.638	-0.555
療養	-	-	-	-	-	-	-	-
管理	-	-	-	-	-	-	-	0.544

数値はSpearmanの順位相関係数：
 $r > .20$ かつ $P < 0.05$ の場合のみ表示 (n=14)

V 結論

- ① 経験年数が少なくなるにしたい、看護師はコミュニケーション不足を感じている。
- ② 中堅看護師は、役割ストレスから仕事意欲を低下させ、確認や注意力などの安全意識が低下すると推測される。
- ③ 医療安全風土尺度得点とインシデント報告件数の相関から、「患者や家族の参画」と「ドレーン」に関するインシデントに負の相関を認めた。